


第247号
2022年7月20日

日本大学鶴ヶ丘高等学校 広報部
東京都杉並区和泉2-26-12
TEL 03-3322-7521 (代)
<https://www.tsurugaoka.hs.nihon-u.ac.jp>



第71回入学式

学 校 行 事 《 第 1 学 期 》

4月6日	入学式	2日	3年特進コース大学共通テスト模試（～3日）
7日	始業式	3日	3年普通コース日大チャレンジ模試
8日	部活動紹介	18日	校内英語スピーチコンテスト
11日	全学年スタディーサポート	20日	芸術鑑賞教室
13日	1年校内オリエンテーション（～14日）	22日	1年総進コース進路適性検査
15日	生活指導講演会		2年普通コース自己分析テスト
16日	全学年保護者会	25日	1年キャリアガイダンス
20日	1・2年基礎学力到達度テスト		3年生徒・保護者対象進路説明会
21日	3年基礎学力到達度テスト	7月2日	特待生・奨学生授与式
22日	3年特進コース実力試験（～23日）	5日	期末試験（～8日）
26日	定期健康診断	11日	答案返却授業（～12日）
5月10日	体育祭	14日	2・3年特進コース実力試験
11日	生徒総会（前期）	15日	三者面談（～19日）
12日	校外授業	20日	1学期終業式
21日	中間試験（～25日）		防災訓練
23日	教育実習（～6月11日）	21日	2・3年特進コース合宿講習（～25日）
28日	英検準会場	25日	夏期講習Ⅰ期（～29日）
6月1日	3年普通コース対象志望理由書講座	8月22日	夏期講習Ⅱ期（～26日）



入学おめでとうございます

令和4年度 第71回入学式

401名(男子182名・女子219名)が仲間入り

令和四年度入学式が四月六日(水)午前十時より、本校体育館で行われた。真新しい制服に身を包んだ四〇一名の新入生は、咲き誇る桜に祝福されながら新たな一歩を踏み出した。

来賓には、日本大学学長代理、丸山総一生物資源科学部長をはじめ、多くの方々を迎え、晴れやかにして厳かに式が挙行された。式終了後、新一年の学年主任、学級担任、学年担当が壇上に上がり、新藤隆夫教頭によって新入生保護者に紹介された。

式次第

開式

国歌斉唱

学校長式辞

川原 容子校長

学長告示

加藤 直人学長

(代読 丸山総一生物資源科学部長)

在校生代表 歓迎の言葉

生徒会長

三B 川崎 湊太(深沢中)

新入生代表 誓いの言葉

一K 白土 結衣香

(南六郷中)

新入生保護者挨拶

小宮 一仁様

校歌斉唱

閉式

式辞

学校長 川原 容子

春本番を迎え、花々が競うように咲き誇っている今日の佳き日に、四〇一名の新入生を迎え、令和四年度第七十一回日本大学鶴ヶ丘高等学校の入学式を挙行するにあたり、日本大学学長代理として、日本大学生物資源科学部長丸山総一先生をはじめ執行部の先生方、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜りましたこと、学校を代表いたしまして心より御礼申し上げます。



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。教職員・在校生一同、皆さんの入学に対し、心から歓迎いたします。皆さんは自らの意志で本校を選び、厳しい入学試験を突破し、本日を迎えました。入学式は、皆さんが自ら学び、自ら成長することを決意するとともに、本校の伝統を受け

継ぎ、さらに発展させることを誓う場です。また、鶴ヶ丘高等学校での生活をスタートするにあたり、本校の校訓である「自主創造」「真剣力行」「和衷協同」を心にしつかりと刻んでください。

「自主創造」とは、日本大学の建学の精神でもあり、知的好奇心をもって自らが課題に取り組み、自分の道を切りひらいて行くことです。

「真剣力行」とは、何事にも新鮮な発想を持ち、強い自制心を持って全力を尽くすことです。

「和衷協同」とは、周囲の人たちと同じ目標に向かって力を合わせ、心を一つにともに行動することです。

本校では、この三校訓をもとに、日本大学の「教育憲章」にもつなげてブランドデザインを作っています。そして、育みたい生徒像を主体的に、協働的に「考える生徒」「学ぶ生徒」「道をひらく生徒」としています。

高校生活においては、義務教育にはない厳しさがあり、積極性が求められる場面も多くなりますが、すべての授業・行事・部活動など、校内はもちろん、校外の活動においても「目標に向けてどう楽しく挑戦をしてやり抜けるか」を自らが考え、学んでください。

これから高校生活を始めるにあたり、皆さんに三つのお願いがあります。

一つめは「対話ができる力をしっかりとつけていく」ということです。

皆さんは様々な地域からこの鶴ヶ丘高校に入学して、今日から縁あって大切な

仲間になります。そして、その一人ひとりとは、違った考え方、感じ方を持つています。そのうえで出てくる異なる意見や考えに耳を傾けましょう。

時に分かり合えないことがあったとしても、粘り強く「対話」をすることをあきらめないでください。そして、「対話」をしていく中では、必要に応じて主張してきた意見を潔く変えていく勇気も必要です。

また、まだ先のことでありますが、卒業後いざれ漕ぎ出す世界では、より多様な人々との協働が求められます。特に多国籍の人々との対話では、英語が主流となります。分かり合えないことを前提とする異文化においては、他言語の学びはもちろん、日本の文化や習慣を理解し、伝える力も求められます。

ゆつくりと、しかし確実にまずは「日本語で対話ができる力」をつけていきましょう。

二つめは「生活習慣を確立し規律を守る」ということです。

具体的には、学校生活において「礼儀をわきまえ挨拶をする」「物を大切にする」更に「時間管理ができる」ことが求められます。

これらのことは学校だけではなく、社会生活を営む上でも基本となります。

三つめは「勉強することは読むことである」ということです。

本を読むことは、自分とは違った人の考え方を学び、その人生を追体験することでもあります。色々な考えに触れ、自

身の世界を深め、広げることが出来ます。さらに、その中から学びを深める力と楽しく学びを見つけながら、時には物事の本質を考え探究していく力も養ってほしいと思います。

今日から鶴ヶ丘生として、周囲への気配りと思いやり、感謝の心を大切に、心豊かな人に成長してください。

結びになりますが、この鶴ヶ丘高校での三年間が充実した日々となるよう、教職員一同、しっかりと育ててまいります。

保護者の皆様におかれましては、本校の教育方針に、深い御理解と御協力をいただけますようお願いをし、式辞とさせていただきます。

令和四年 四月六日

告辞

日本大学学長

日本大学短期大学部学長

加藤 直人

本日、令和四年度日本大学鶴ヶ丘高等学校の入学式が挙行されるに当たり、日本大学を代表して新入生の皆さんにお祝いの言葉を申し上げます。

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。本日から、晴れて日本大学の付属校である本校の生徒になられたことを心から歓迎いたします。本校は、日本大学の付属校として、この地域で本校特有の独自性を生かし、日本大学が持つ総

合性が結び付くことで、有為な人材を育成することを目的として設置されました。日本大学は、令和元年に創立百三十周年を迎えた歴史と伝統を誇る日本最大規模の総合大学です。これから本校で過ごす学園生活は、皆さんの成長にとっても重要な基礎作りを行う貴重な時間です。学業はもちろんのこと、課外活動にも積極的に取り組み、悔いのない充実した学園生活を過ごしてください。

保護者の皆様におかれましては、これまでお子様を立派にお育てになり、晴れがましいこの日を迎えられたことに心からお喜び申し上げます。これから始まる学園生活を通してお子様の成長する姿を温かく見守っていただくよう、よろしくお願いたします。

昨年、本学が起こしてしまった一連の不祥事は、皆様方にご迷惑をお掛けいたしました。公共性の高い学校法人でこのような事件を起こしてしまったことは極めて遺憾であり、申し訳なく思っております。皆様方から信頼をいただける学校法人として生まれ変わるべく、全力で改革を進めてまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。

さて、新入生の皆さんが、これから学園生活を始めるに当たり、日本大学の歴史を紹介したいと思います。

日本大学は、一八八九年に創立された日本法律学校を前身とします。その創立に際して、中心的な役割を果たしたのが、明治政府の初代司法大臣を務めた山田顕義伯爵です。

当時の日

本の法学教

育は、ヨー

ロッパやア

メリカなど

の法律が主

流でした

が、山田伯

爵は、日本

の近代化の

ためには日

本社会に即

した法の整

備が必要であり、その日本法律を教育す

るための私立学校設立の必要性を感じて

いました。一方で、帝国大学教授の宮崎

道三郎を中心とする若手の法律学者たち

が日本法律を教える学校設立の計画を進

めていました。山田伯爵は自身と同じ趣

旨で学校設立を進めている彼らを知り、

その後、全面的に支援していただきました。

日本法律学校は、創立に関与した宮崎道

三郎先生や大日本帝国憲法起草し、初

代の校長となる金子堅太郎先生などの若

き法律学者たち十一名を創立者とし、彼

らを全面的に支援した山田顕義伯爵を学

祖としています。

学祖山田顕義は、当時主流だった考え

方に流されることなく、何をすべきかを

手探りで考え、自ら答えを導き出し、行

動に移しました。この学祖の生き方、考

え方こそが日本大学の教育理念である

「自主創造」です。「自主創造」は、「自

ら学び、自ら考え、自ら道をひらいてい



く」ということで、日本大学での学びの姿勢を示す言葉となっています。皆さんがこれから本校で学園生活を送る上で、常に意識していただきたい言葉です。

皆さんがこれから生き抜いていく世界は、これまでに誰も経験したことがない時代を迎えています。新型コロナウイルスの蔓延を誰が予想していたでしょうか。技術進歩はこれまでにないスピードで進み、政治や経済もますます複雑化している現状です。

皆さんはこのような難しい時代を生き抜いていかなければなりません。そのためには、本校の学園生活で「自主創造」の精神を修得してください。将来のために今何をしなければいいのか、常に自分の頭で考える習慣を意識してください。

皆さんのこれからの学園生活において、様々な学問を幅広く学び、豊かな教養を身に付けることが重要となります。多くのことに興味を持って、たくさん学ぶ努力を続けてください。また、これらの学園生活では、読書する時間を増やしてください。活字から得られる教養は、ただ知識が増えるだけでなく、それにより読解力が身に付き、多角的に物事を考える力が養われます。読書は、皆さんのこれからの人生を豊かにしてくれるはず

です。

結びとなりますが、皆さんが有意義で充実した学園生活を送られることを心より祈念して、本日の告辞といたします。

令和四年四月六日

令和四年三月一日に行われた令和三年度卒業式の「学校長式辞」と「学長告示」は例年通り本号に記録として掲載する。

式辞

学校長 川原 容子

日一日と桜の開花が待ち遠しいこの佳き日、令和三年度第七十一回日本大学鶴ヶ丘高等学校の卒業証書授与式を挙げるにあたり、日本大学学長代理として、日本大学生物資源科学部長丸山総一先生をはじめ、執行部の先生方、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、このよう卒業式を挙げていきます事は、卒業生は元より教職員一同この上ない喜びであります。ここに学校を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。

四二三名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

早いもので、入学式から三年、皆さんは本日めでたく本校所定の課程を終え、卒業式を迎えました。この日を迎えられたのは、皆さんの努力はもちろんですが、今日まで支えてくださった家族をはじめ、多くの方々のご指導やご協力のおかげでもあります。そのことに感謝の気持ちをお忘れたいと思います。

さて、卒業生のみならずには、二つの言葉を贈りたいと思います。

最初に「素直な気持ちをもって、謙虚

に生きる」ということです。

今、皆さんは将来への大きな夢を持っていると思います。古くから、偉大なる人たちは、逆境に抗いながらも、不屈の精神で生き抜き、夢を実現していった経験が多く持っています。

しかし、世の中は甘くない、現実には厳しいと我慢をしながら結局は夢半ばであきらめる人もいます。反対に、順風満帆に思われた夢への実現において、感謝を忘れ、自惚れ故に夢を壊してしまう人もいます。

このような状況でも、最も大切なことは、その与えられた環境に感謝し、「素直」に「謙虚」に生きていくかどうかだと思います。

素直さを失ったとき、逆境は卑屈を生み、人は自分と向き合うことをやめてしまいます。

素直さは、人を強くし、正しく聡明にしてくれる力だと思えます。環境の違いを憂えるのではなく、厳しいときは素直に受け入れ、うまくいっているときは、その環境に感謝をして、素直にまっすぐ伸びていく人になってほしいと思います。

二つ目は、「私たちを健康に幸福にするには、よい人間関係に尽きる」ということです。

これは、ハーバード大学で行われた八〇年間、七二四人の追跡調査から導き出された究極の結論です。

経済力でも名誉でもない、いたってシンプルな結論となりました。

人の一生を考える時、確かにとうなずけることではないでしょうか。

人として生を受け、慈しみ育まれながら、さらに鶴高も含めた様々なコミュニケーションの中で、皆さんには人との良い出会いが多くあったのではないのでしょうか。

しかし、振り返った時に誰しにも、争いや傷つけあった辛い時間もあったと思います。

『トムソーヤの冒険』などで知られるマーク・トウェインは、「かくも短き人生に、争い、謝罪し、傷心して責任を追及している時間などない。愛し合うための時間しかない。それがたとえ一瞬にすぎなくても」と言葉を残しています。

特に、現代は知識や技術のタコソバ化が進み、同じ嗜好の人としか話をしなくなっています。

その中であって、分かり合えないことを前提に「多様な人々との対話」をする努力を続けていくことを、これからもあきらめないでほしいと思います。

その中から生まれた良い人間関係が、どんな地位や名誉よりも、人を強く支え幸せにしてくれ

ると信じています。

結びに、保護者の皆様には、立派に成長さ



れ、鶴ヶ丘高校を巣立とうとしているお子様の姿をご覧になり、お喜びいかばかりかと存じます。

ここに、お子様の卒業のお祝いと、ここまで育てられたことに對し、敬意を表すとともに、感染症拡大の中にあつても、三年間にわたる本校に對する多大なるご支援とご協力で深く感謝申し上げます。

令和四年三月一日

告辞

日本大学学長
日本大学短期大学部学長

加藤 直人

本日、令和三年度日本大学鶴ヶ丘高等学校の卒業式が挙行されるに当たり、日本大学を代表して卒業生の皆さんにお祝いの言葉を申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんが高等学校所定の教育課程を修了されたことに、心からお祝いを申し上げます。

保護者の皆様方には、お子様の御卒業を心よりお喜び申し上げます。これまで、本校に對して深い御理解と多大な御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。また、教職員の皆様には、学業はもとより、課外活動においても、日々、生徒たちに温かい御指導をいただき、感謝いたします。昨年、本学前理事長が所得税法違反及び元理事が背任容疑で逮捕・起訴された

ことにより、皆さんの学園生活に支障をきたし、皆さんは悲しみと憤りを感じたことと思います。保護者の皆様方や教職員の方々にも御心配をお掛けして大変申し訳なく思っております。日本大学百三十年の歴史の中で、前代未聞の不祥事により、先人たちが築かれた伝統ある日本大学の名が汚されたことに私としても非常に残念な気持ちです。

このような事態が二度と起こらないよう、日本大学は、教育・研究機関としての役割を今一度自覚し、改めて大学や付属校が素晴らしい教育・研究機関であると誇れる体制を築き上げるべく、誠心誠意努力し、新しい日本大学として生まれ変わることをお約束いたします。

さて、皆さんの新たな出発の日に当たり、「立志」という言葉について話をさせていただきます。現在の山口県萩市にあった松下村塾で、日本大学の学祖山田顕義伯爵は、師吉田松陰先生から教えを受けましたが、その教えの一つに、「士規七則」があります。「士規七則」とは、「武士が身に付けておかねばならない七つの決まり事」という意味ですが、松陰先生はその文章の最後に、すべての事の源は「立志」すなわち志を立てることであり、次に良き友を選び、書物を読んで古来聖賢の考えに触れ、自身でそれをよく理解するように、と述べています。

それでは松陰先生の言う「立志」とは何かなるのでしょうか。山田学祖が元服を迎えるに当たり、松

陰先生は「山田生に与ふ」と題した漢詩を扇の面に揮毫して学祖に授けました。その扇には「志を立てるには人と異なる大きなものがない。くだらぬ人間を相手にする必要はない。くだらぬ人は、亡くなった後の評価も考えず、ただ目の前にある安易な道を選んではしまう。百年は一瞬に過ぎ去ってしまう。君たちはひとときも時間を無駄にしてはならない」と書かれています。すなわち松陰先生のいう立志とは、自ら人とは違う大きな目標を立てることであり、その達成のためには、凡人の誘いに惑わされることなく、夢に向かって一直線に進むことが大事であると山田学祖に論じているわけです。松陰先生がここに示された「立志」の考えは、本学の教育理念「自主創造」とも相通じています。

「自主創造」とは、「自ら考え、自ら学び、自ら新しい道をひらく」ことを意味し、目標を定め、そのために学習し、そして自らの道を切り拓いていくことです。

学園生活に多大な影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症は日々の生活様式を変化させ、皆さんは多くの苦勞を余儀なくされました。通学時や授業はもろんのこと課外活動や友人と交流する時間さえ制限されたことでしょう。しかしながら日々の変化に順応しながらこの苦難を乗り越えてこられました。皆さんは本校での学園生活でこのような能力を備え、社会の変化に對應していく力を修得しました。これからの社会は目まぐるしく変化します。その時こそ、これまでの

苦難を乗り越えた自分を信じ、新たな目標を立て、道を切り拓いていくこと、すなわち「立志」の気持ちを忘れないでいただきたいと思います。

保護者の皆様、お子様は、大変な学園生活を過ごされました。無事に今日の日を迎えられたことは保護者の方々の支えがあつたことと存じます。ぜひ、これからも温かい目でお子様の成長を見守っていただき、時には悩みながら将来に向かっていく背中を優しく後押しするなど、引き続き支えていただきたいと思います。

卒業生の皆さん、将来の目標をしっかりと立て、自ら学び、努力し素晴らしい未来を手に入れてください。皆さんのこれからますますの御活躍を心から祈念して、本日の告辞といたします。

令和四年三月一日



広報室

〈異動（転出）〉

大熊 宏明 事務課主任

令和四年四月一日付で、日本大学
生物資源科学部会計課へ転出されま
した。

〈異動（転入）〉

井上 陽介 先生（地歴・公民科）

令和四年四月一日付で、日本大学
藤沢小学校より、本校へ着任されま
した。

生徒のみなさんが楽しく、成長し
ていけるよう精一杯頑張ります。よ
ろしくお願いいたします。



神山 薫 課長補佐

令和四年四月一日付で、日本大学
生物資源科学部会計課より、本校に
着任されました。

〈新任〉

◎非常勤講師

梅村 智絵 先生（国語科）

みなさんと学ぶ姿勢を大切に、国
語の楽しさを伝えられるよう頑張り
ます。よろしく願います。

松平 悠 先生（国語科）

文を読んだ時、より多くの情報を
手に入れられるようになってもらう
ことを目指しています。共に頑張り
ましょう。

河西 恵来 先生（数学科）

皆さんに少しでも数学の面白さ
が伝わるように精一杯頑張ってい
たいです。よろしく願います。

小林 俊太 先生（数学科）

皆さんの鶴ヶ丘生活がより良い
ものになるように授業だけでなく、
行事や休み時間などを通してサポ
ートできればと思っています。一年間
よろしく願います。

林 宏太郎 先生（数学科）

初めまして林宏太郎です。五年前
に卒業したこの場所で教員生活を始
められて嬉しいです！楽しみながら
勉強していきましょう！

荒木 望永 先生（保健体育科）

生徒の皆さんと共に学んでいけ
るよう、全力で頑張ります。よろし
くお願い致します。

山口 真美 先生（家庭科）

皆さんに家庭科の面白さを沢山、
伝えていけるよう一生懸命頑張ります。
どうぞよろしく願います。



令和4年度 第1学年担当教員紹介



学年主任

齋藤 純先生 (理科)

担任

A 組 津田 寛行先生 (保健体育科)

B 組 長谷川 淳先生 (地歴・公民科)

C 組 中西真彩美先生 (国語科)

D 組 東條 剛先生 (国語科)

E 組 高部兼太郎先生 (保健体育科)

F 組 堀内 美和先生 (理科)

G 組 松田 房之先生 (芸術科)

H 組 大館 克春先生 (数学科)

I 組 齋藤 直子先生 (英語科)

J 組 鹿野 雄大先生 (数学科)

K 組 高間 大輔先生 (英語科)

副担任

渡邊美那子先生 (国語科)

井上 陽介先生 (地歴・公民科)

桐田 知典先生 (地歴・公民科)

金箱 春菜先生 (数学科)

谷口富太郎先生 (英語科)

学年付

近藤 明宏先生 (理科)



第一学年 現在までを振り返って



学年主任
齋藤 純

入学してから早二ヶ月が過ぎようとしています。生徒達は様々な行事を通し、「新入生」から「鶴高生」となり、学校になじんできている様子が見て取れます。ここで、行事を振り返っていききたいと思います。

入学式は三年ぶりに保護者に参列していただき、体育館で挙行することができました。厳粛な式の後に、学年から、早めの登校と家庭学習の確認を生徒・保護者をお願いしました。

オリエンテーションでは、「本校を知ってもらう」「担任・クラスの団結を深める」ことの二つを目標にスケジュールを作成しました。一日目は教務や生活指導の話、午後はグ

ラウンドで大縄を飛びました。二日目は学校探検や、友達の意見を尊重して聴くことの大切さを学びました。そして、体育館での綱引きでオリエンテーションを締めくくりました。

体育祭では、クラス対抗の種目で汗を流しました。生物資源科学部の広いグラウンドを借りて、綱引き・ボール運び・クラス代表リレーが予定通り実施されました。また、スムーズに進行したため急遽大縄もできました。身体を動かすと心も元気になりますね。笑顔で競技に取り組んでいる姿が印象的でした。

校外授業はお台場へ行き、宝探しをしました。天候が心配でしたが宝探し実施中は雨は降らず、くたくたになりながらたくさんさんの距離を歩きました。班員同士が協調性をもって取り組むことの大切さ、計画を立てて行動することの重要さなど、感想文を読むと色々と考えてくれたようで嬉しかったです。

そして、高校で初めての定期試験の結果はどうだったでしょうか。入

学当初から、中間試験までに学習習慣を身につけてほしいと願ひし、担任との個人面談や保護者へのご家庭での声掛けをお願いしてきました。学年の目標は「当たり前のこと」をきちんとやり、楽しく充実した学校生活を送ること」です。学校生活を充実させるために、これからも自ら考えて行動できる生徒になつてもらいたいと願っています。

I組 永野 陽菜（有明西学園）

今回が高校生になって初めての校外学習でしたが、得ることがとても多かったです。

その一つが、計画性です。私たちの班は宝探しで、比較的高得点のものからとっていく、という計画を立てました。計画通りに実行することで、体力の無駄遣いをすることなく、効率良くゴールが獲得できました。結果、学年一位にはなれませんでした。ですが、クラス一位になることができて、驚くと共にとても嬉しかったです。

たです。

また、コミュニケーション能力もアップしたと思います。宝探しでは、みんなで謎を解決しなければいけないので、コミュニケーションがとても大切でした。少しでも分かったことがあれば、それを共有することでも、もう一人がひらめくかもしれません。そのため、班員同士でコミュニケーションを取り合い、謎を解き進めました。

一人一人の協力が試されることで、仲も深まりました。学ぶことが多く心から楽しめて、とても良い思い出になり、これからの学校生活がより楽しくなりました。



第二学年 校外授業



学年主任
滝澤 満

五月十二日、二学年は横浜の港の見える丘公園からみなとみらいまでの範囲で、ウォークラリーを行った。各クラス五名ほどの班を作り、史跡や観光名所をまわり、配布された問題を解いて回る中で、新しいクラスの仲間と親睦をはかるのが目的のひとつである。もうひとつの目的は、昨年行えなかった校外授業を感染症対策をとりつつ行い、修学旅行へ向けての準備と経験を得ることである。

この二年以上の間、感染症により学校行事は縮小させられてきたが、生徒の意識も高まり、適切な行動をとれることから、信頼して校外授業を実施することができた。

生徒の様子は、新宿集合の時から

笑顔がありつつも多少の緊張感が感じられた。中学生の時にも行事等が縮小されていたため、学校外での活動の経験が少ないことと、新しいクラスメイトと過ごす時間に期待と緊張があらわれたためだと思われる。場所は、横浜ということもあり、訪れた経験があることを想定して選択したが、予想外に初めて来た生徒が多く、驚きとともに、自粛生活をしつかりと守ってきた生徒とご家族であることを再認識した。

クラスの事前指導で行動範囲を確認し、行ってみたい場所などのまわる順序を計画していた班もあった。また、ウォークラリーの問題を解きつつも、家族にお土産を買って帰る生徒の姿などがあり、以前のように学校行事が行えるようになってきたことが実感できた。

ゴールの時間には、残念ながら雨が降り始めてきたが、生徒達は疲れた顔をしつつも笑顔であり、充実した一日を過ごせたようである。後日、ウォークラリーの順位発表となり、入賞した班の中に、昼食時間に遅れそうになり、会場に走りこむほど真

剣に取り組んでいた班があった。そのような、何事にも真剣に取り組む姿が、学校活動の中心となっていく二年生として頼もしいばかりである。今後も、勉強に部活動に活躍することを期待している。

怒涛の一週間

H組 齊藤 碧音（調布七中）

ドキドキの班決めから始まった校外学習は既に私達の思い出となり、記憶に刻まれている。冷え込んだ朝であったがそんな事を気にさせないほど私達の気持ちはたかぶっていた。

この校外学習を通して気づいたことが二つある。

一つ目は、周りを見ることがだ。五人で活動していくための「気を配る」方を見るだけでなく、町の風景を「見る」事だ。皆は普段新しい土地に行くところのようにして道を調べらるだろうか。ほとんどがスマホだろう。私もそのうちの一人だった。しかし、スマホが使えなかったため、

看板や写真を頼りに目的地へと歩いた。そのため、班でたくさん話をすることもできたし、見逃すことのないように周りを見て歩くので、何度も行った横浜でさえ全く違う場所のように感じた。また、人に助けを借りたり、班で協力してポイントに着いた時はスマホに案内されるよりも確実に達成感があった。

二つ目は、協力だ。当たり前だが、一人の力では今回のポイントを回することは不可能だった。人に聞く係や地図を見る人、タイムキーパーをしてくれる人などそれぞれが自分の得意な事を生かして動いていた。誰か一人が抜けたら成り立つことはなかっただろう。

男女で分かれてしまう不安もあったが、そんなこともなくそれぞれがそれぞれの持つ力を合わせて楽しくまわることが出来た。全班が思っていることだろうが、「私達が一番楽しかった！」。今回違う班だった人とも色々なきっかけを持ち関わりた

第三学年 年度初めに当たって



学年主任
石山 道宏

入学当初から続いている新型コロナウイルス感染症の収束が見えないまま、生徒は最終学年の三年生になりました。マスク着用がまだ求められているまま三年になったので、このまま卒業してしまうと卒業後学校に来てもらったときに誰か分からないのではないかと不安が出てきました。マスクをしない状態での教室での対面授業は、今年度中に行えるのでしょうか。

さて、四月下旬に行われた基礎学力到達度テストで英語、数学、国語の成績のうち四割が確定しました。九月には理科または地歴公民が加わって最後の試験です。それに備えて夏休みは部活もあると思います。が、一生懸命学習してほしいと思っています。

五月に行われた体育祭は学年別の実施となり、とうとうこの学年は最後まで全学年で実施した三年前のような体育祭を経験することが出来ませんでした。最終学年でリーダーシップを発揮し、下の学年の生徒たちをまとめてくれることを期待していましたが、とうとうコロナのせいではダメでした。卒業後はどこかでリーダーシップを発揮して社会で活躍してほしいものです。

校外授業は、新クラスの親睦という目的がありましたので四月に実施できたかと常々思っています。基礎学力到達度テストがある関係でどうしても五月に実施せざるを得ませんでした。体育祭が終わってすぐの校外授業で疲れてしまったと思いますが、マザー牧場で動物や景色に癒されたという声を多く聞くことができて、実施できてとても良かったと思っています。以前、マザー牧場で校外授業を実施した際は、飯盒炊爨をまず行ってから牧場の見学という流れでした。今年はコロナの関係で飯盒炊爨はあきらめました。その分、牧場をめぐれば楽しいのでクラスメイトと楽しいひと時を過ごしてもらえたいと思います。

次は気分を改めて進路の目標を達成できるよう頑張ってください。

最初で最後の校外授業

F組 藤本まひろ（北沢中）

今回の校外授業は高校生最後で、同時に人生最後の校外学習だったのだとても楽しみにしていました。まだ新しいクラスになったばかりで、話した事がない人がたくさんいたので班とバスの席をくじで決めると言われた時はとても不安でした。しかし、班が決まって計画を立てている内にだんだんと仲良くなっていくのを感じ、校外学習が不安から楽しんだという気持ちに変わっていききました。

当日、行きのバスで隣の席の人とたくさん話ができました。お互いの事を教え合って、たくさん共通点を見つけて嬉しかったです。マザー牧場ではネモフィラの花や羊の毛刈り、子豚のレースなどを見ました。また、うさぎや羊などを実際に触ったりもしました。動物を実際に触ったり見たりの後の昼食の時には、いつもより食べる事に対するあ

りがたみを感じました。もっと感謝の気持ちを持ち普段から食事しようと思いました。昼食の後、班の四人で観覧車に乗りました。観覧車からはマザー牧場が一望できて、改めて自然の多さと広大な土地に驚きました。普段自然が多い場所に行ったり、色々な種類の動物に触れ合ったりすることはあまりありません。そのため空気の綺麗さや、緑の多さがとても新鮮で気持ちが良かったです。マザー牧場はとても自然が多く、とても良い場所だったのでまた行きたいです。

普段話さない人や、去年、一昨年同じクラスだった人など沢山のひと交流できるとても良い機会でした。今年同じクラスの人がほとんど知らない人ばかりだったので仲良くなれるか不安だったのですが、話しやすい人ばかりで校外学習も無事に楽しむことができました。計画を立てるのが得意な人、みんなを集めたりするのが上手な人など、クラスの人の良いところを沢山見つけられたと思います。残りの高校生活をこのメンバーで過ごす事ができるのをとても嬉しく思います。



生徒会指導部 久保田善政

令和4年度体育祭が5月10日（火）、日本大学生物資源科学部湘南キャンパスのグラウンドにて開催された。校外での実施は3年ぶり、新型コロナウイルス感染症対策のために学年別に時間をずらしての開催となった。当日は朝早く雨が上がり、午後には青空が広がって、気持ちの良い気候の中で競技を進めることができた。学年全体が一斉に競技に取り組む中で、様々な個性を持った仲間がいて、自分もこの仲間の一員であることを自覚し、また、クラスの仲間と一緒に楽しみながら協力して取り組むことを通して、クラスや学年の親睦、団結を深めることに繋がった。2・3年生に対しては、体育祭終了後に生物資源科学部の説明会が希望者を対象に行われた。実施した競技プログラムと結果は次の通りである。

2年の部 集合9時

- | | |
|------------|--------|
| ① 開会式・準備体操 | ② 大縄跳び |
| ③ 部活動対抗リレー | ④ 綱引き |
| ⑤ クラス対抗リレー | |

結果 優勝：I組 準優勝：B組 三位：F組

3年の部 集合11時

- | | |
|------------|------------|
| ① 開会式・準備体操 | ② 大縄跳び |
| ③ ボール運び競争 | ④ 部活動対抗リレー |
| ⑤ 綱引き | ⑥ クラス対抗リレー |

結果 優勝：C組 準優勝：H組 三位：A組

1年の部 集合12時45分

- | | |
|------------|-----------|
| ① 開会式・準備体操 | ② ボール運び競争 |
| ③ 綱引き | ④ 大縄跳び |
| ⑤ クラス対抗リレー | |

結果 優勝：G組 準優勝：K組 三位：B組



エイエイオー

3E 藤木 蓮生（相模丘中学校）

人生最後の体育祭、委員長としてこの体育祭をどうしたら忘れられない最高のものにできるのか、とても悩みました。そんな時支えてくれたのが体育祭実行委員の仲間と先生方でした。先生方の競技選考と当日の運営、委員の仲間のキビキビとした動き、この二つによって私は支えられました、当日の運営予定では負けたチームは1回しか競技をする機会がない予定だった綱引きも、みんながキビキビ動いてくれたお陰で2回目をすることができました、ありがとうございます。

運動ができる子、苦手な子など様々な生徒がいる中で全員が輝ける種目を設けてくれた、先生方ありがとうございます。

高校3年生、いいグラウンドでの最初で最後の体育祭、これからは受験などが待っています。しかし、僕たちは必ずどこかで輝けます。どんなことがあってもめげずに諦めなければ負けることはありません。最後まで諦めずに戦い抜きましょう。明日に向かってエイエイオー。

三年生を送る会

生徒会指導部 磯崎 宏

三年生を送る会が二月二十四日（木）に行われた。三年生は教室にいて、体育館からのライブ中継でオープニングをカラーガード部が飾った。続いては動画視聴となり「写真集」「クイズ大会」「メッセージfrom先生」で幕を閉じた。この鶴高で出会った縁をお互い大切にして、これから生きてほしい。コロナ禍で行事も少ない中で、力いっぱい高校生を送った先輩へのエールを込めた、後輩たちからのプレゼントとなった。



相談室

高校生が一日の大半を過ごす学校は、実にさまざまなことが起こる場所です。友だちとの関係、部活動のこと、進路の悩み…ひとりで抱えるにはあまりに大きな困難や課題と直面しながら生徒は生活しています。

そのような問題は周囲の友達や家族、先生方に相談することで解決できるものも多いとは思いますが。しかし、時には誰に相談していいのかわからなくなり、焦り、不安が募ることもあるでしょう。また、ただ話を聞いてもらいたい、気持ちをおかしてもらいたい、そう願うことも少なくはないと思います。そのようなときには生活相談室を訪ねてみてください。相談室は修学寮の一階にあり、きれいであたたかな空間です。一人でも、友だちと一緒にでもかまいません。「ちょっと休憩してみよう」という感

覚でお話しをすることができます。

新しい環境での生活に体は慣れても、心が慣れるまでには時間がかかることもあるでしょう。これでもいいかなと迷ったり、ちょっと無理してがんばってしまっているにつかれてしまったり。少しずつでも自分らしく笑顔で楽しく生活したい、とは誰もが願うこと。一人でも多くの生徒が居心地のいい環境で充実した学校生活を送れるよう、生活相談室がお手伝いをしていきたいと思います。時間のかかることもあるとは思いますが、不安などを解消できるよう一緒に考えていきたいと思います。

今年度は日本大学本部より火曜日と金曜日にカウンセラーが来校いたします。また、相談室直通の電話もあります。お気軽に相談室をご利用ください。

2021年度（令和3年度）の進路概況

令和3年度の進路概況を報告します。まず、進学状況全般ですが、現役総合進学率は96.7%で、昨年度よりも微増の進学率となりました。内訳は日本大学が63.1%、短期大学と海外の大学を含めた他大学が32.6%、各種学校が0.9%でした。日本大学進学率は5年連続で60%を超え、昨年度より1.4%増加しました。また、短期大学部への進学者数は昨年に引き続き2人でした。大学で学びたい学問系統が定まっていれば、短期大学部へ一旦入学し、2年次もしくは3年次に4年制へ編入するという方法も有効です。

日本大学への進学状況の詳細ですが、進学者数のトップ5を紹介すると、一昨年度、昨年度と2位だった文理学部、一昨年度1位、昨年度3位だった経済学部の2学部がトップ（46名）になりました。この2学部は例年本校からの進学者数は常に上位に入る学部ですが、コロナ禍で、先行き不透明な就職状況なども考慮し、資格志向が高まったことに加えて、通学距離、通学時間の短さという地理的条件もこの結果に影響しているようです。以下、3位には法学部（昨年度4位）、4位には本校が併設付属である生物資源科学部（昨年度1位）が入りました。なお、生物資源科学部の獣医学科には3名が進学しています。5位は理工学部（昨年度5位）でした。建築学科には5名が進学しています。昨年度も進学者数上位5学部は順位の入れ替わりはあるものの不動でした。また6位以下で特筆すべきは芸術学部で、過去5年間で15名→13名→16名→11名→18名という本校からの進学者数推移でしたが、令和3年度は23名となり、昨年に引き続き2年連続で最多進学者数を更新しました。この数字は全付属校においても飛び抜けています。

全国的な傾向としては2022年度共通テストへの志願者数は530,367名で4年連続の減少となりました。昨年は入試改革による浪人回避による影響もあり、減少分の大半は既卒生であることが特徴です。現役志願者数は449,369名、前年比ではほぼ横ばいです。現役志願率は過去最高（45.1%）であるものの、高等学校等新規卒業見込み者数が初めて100万人を割り、共通テスト志願者における現役生占有率は84.7%で過去最高となりました。

他大学の合格状況ですが、国公立大学は群馬大学医学部、横浜国立大学、東京都立大学、千葉大学、埼玉大学を含む16名の合格者を輩出しました。私立大学については、早慶上理レベルの難関私大に22名、GMARCHには69名が合格し、それぞれ前年度の数を上回りました。

さて、本年度3年生ですが、昨年、一昨年とコロナ禍の影響で多くの大学のオープンキャンパスがオンラインで実施されるなど、実際にキャンパスを訪れる機会がほとんどないことに加えて、対面で日本大学の説明を受ける機会も皆無でした。そこで6月25日に実施された生徒保護者対象進路説明会において、全体会終了後に体育館に法・文理・経済・商・芸術・理工・薬学部より教職員を招聘し、個別相談会を実施しました。さらにそれに先立って6月15日の放課後には芸術学部の説明会をオンラインで実施し、20名の生徒が参加しております。どの生徒も自分の第一志望実現のため、毎日、奮闘を続けています。

次年度は生物資源科学部で改組があり、学部や学科が刷新されます。同学部への進学を視野に入れている生徒はホームページ等の最新の情報に注意しましょう。

進路指導部では主体的に自分の進路を切り拓こうとしている生徒の手助けをするべく、今日もドアは開いています。

令和3年度卒業生 大学合格状況

令和4年3月31日現在

大学名	合計	学部名	普通コース	特進コース
国公立大学				
群馬大	1	医		1
茨城大	1	人文社会		1
埼玉大	1	工		1
千葉大	1	教育		1
	1	園芸		1
東京医科歯科大	1	医(看護)	1	
東京学芸大	1	教育		1
横浜国立大	2	教育	1	1
		人文		1
信州大	3	工		1
		理		1
高崎経済大	1	地域政策		1
都留文科大	1	文		1
東京都立大	1	経済経営		1
諏訪東京理科大	1	工		1
私立大学				
流通経済大	1	社会	1	
東京福祉大	1	教育		1
跡見学園女子大	1	文	1	
埼玉医大	1	保健医療		1
東京国際大	2	国際関係		2
獨逸大	2	国際教養		2
文教大	1	教育		1
神田外語大	1	外国語		1
敬愛大	1	経済	1	
淑徳大	2	総合福祉		1
		教育	1	
帝京平成大	1	ヒューマンケア		1
		国際政治経済		1
青山学院大	8	教育人間	1	
		理	6	
桜美林大	1	芸術文化		1
大妻女子大	3	社会情報	1	
		人間関係	1	1
嘉悦大	1	経営経済	1	
		文	1	1
学習院大	8	法	4	
		理	1	1
北里大	2	理		1
		医療衛生		1
共立女子大	1	家政	1	
杏林大	4	外国語	1	
		保健		3
慶応大	1	文		1
工学院大	3	建築	1	2
国学院大	2	文		2
		文		1
駒澤大	3	経済	1	
		医療健康		1
駒沢女子大	1	人間健康	1	
産業能率大	3	情報マネジメント		1
		経営		2
実践女子大	2	人間社会	2	
		工	2	2
芝浦工業大	7	システム理工	1	1
		デザイン工	1	
		外国語		2
上智大	6	法		1
		総合人間	2	
		理工	1	
昭和大学	1	医		1
昭和女子大	4	人間社会		2
		環境デザイン		2
昭和薬科大	2	薬	2	
女子栄養大	5	栄養	3	2
白百合女子大	2	文	2	
		法	1	2
成蹊大	7	経済	1	
		経営	2	
		理工	1	
		文芸	2	2
成城大	10	法	1	
		経済	4	
		社会イノベーション	1	
		法	1	
専修大	3	ネットワーク情報	1	
		経済	1	
拓殖大	2	工	2	
多摩大	1	経営情報		1
		経営	1	
玉川大	3	観光	1	
		芸術		1
多摩美術大	1	美術	1	
		文		3
		法	1	2
中央大	14	総合政策	1	
		経済	1	1
		商	4	
		理工		1
		文	1	1
帝京大	6	経済	2	
		医療技術		2
田園調布学園大	1	子ども未来	1	
東海大	2	文化社会	2	
		医療保健	1	
東京医療保健大	5	東が丘看護	3	
		立川看護	1	
東京家政大	2	健康科	2	
		工	2	
東京工科大	7	コンピュータサイエンス	1	
		医療保健	2	2
東京学芸大	1	工	1	

大学名	合計	学部名	普通コース	特進コース
東京女子大	3	現代教養	3	
東京女子医科大	1	看護		1
東京都市大	2	理工		2
		国際食料	2	1
東京農業大	11	地域環境	1	1
		農	2	1
		応用生物	2	1
		生命科	1	1
東京薬科大	2	薬	2	
		経営	3	
東京理科大	11	理	2	
		工	1	
		理工	3	
		先進工	2	
東邦大	1	看護	1	
		文		2
東洋大	9	経済	1	1
		社会	1	3
		情報連携	1	
		食環境科		1
日本赤十字看護大	2	看護	1	1
		法	45	12
		文	52	21
		経済	52	8
		商	30	3
		芸術	24	3
日本大	367	国際関係	4	
		理工 ※ 1	39(5)	7
		生産工	6	4
		工	2	3
		生物資源科 ※ 2	35(3)	5
		薬	5	
		危機管理	4	1
		スポーツ科	2	
日本獣医生命大	1	獣医(看護)	1	
日本女子大	1	人間社会		1
		文		1
		法	1	
		経済	4	
		経営	1	
		社会	2	
		国際文化		1
		情報科	1	
		キャリアデザイン	2	2
		グローバル教養		1
武蔵大	2	人文	1	
		経済	1	
		経済	1	
		経営	1	
		教育	2	
武蔵野大	8	人間科学	1	
		薬	1	
		看護	2	
武蔵野美術大	2	造形	2	
		文	1	1
		法	2	
		経営	1	
明治大	14	商	1	
		情報コミュニケーション	2	
		総合数理	1	
		理工	2	1
		農	1	1
明治学院大	2	文	1	
		社会	1	
明星大	6	人文		2
		心理		2
		デザイン		2
ヤマザキ動物看護大	1	動物看護	1	
		文	2	2
立教大	9	経済	1	
		経営	1	1
		観光	1	
		理	2	
		商	1	
早稲田大	4	教育	1	
		人間科学	1	
		国際教養		1
麻布大	2	生命環境		2
神奈川大	2	経済	1	
		経営		1
神奈川工科大	3	情報	1	
		工	1	
		創造工	1	
関西外国語大	1	英語キャリア		1
短期大学				
日本大	2	短期大学部	2	
ヤマザキ動物短期大	1		1	

学校名	合計	学部名	普通コース	特進コース
専門学校				
慈恵看護専門学校	1		1	
浦和学院専門学校	1		1	
東京医療専門学校	1		1	
HAL東京	1		1	
新宿医療専門学校	1		1	
日本大学看護専門学校	1		1	
海外大学				
モナッシュ大学マレーシア分校	1	IT学部	1	

※ 1 () 内は建築学科の合格者数

※ 2 () 内は獣医学科の合格者数

■ウエイトリフティング部

▽令和4年度第55回関東高等学校ウエイトリフティング競技大会東京都予選会（4/11 於：東亜学園高等学校）

男子55kg級 トータル146kg 2位
田淵 英史（2H・石神井西中）

男子81kg級 トータル175kg 1位
小川 裕真（2B・松ノ木中）

男子89kg級 トータル181kg 1位
久保 皓正（2K・稲田中）

女子45kg級 トータル98kg 1位
尾形 薫子（1J・花小金井南中）

▽令和4年度東京都高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技大会（5/1 於：東亜学園高等学校）

男子55kg級 トータル151kg 2位
田淵 英史

男子61kg級 トータル146kg 1位
増田 宜晃（2H・神明中）

男子81kg級 トータル183kg 1位
小川 裕真

男子81kg級 トータル120kg 2位
中川 颯真（1E・瑞雲中）

男子89kg級 トータル187kg 1位
久保 皓正

男子96kg級 トータル172kg 1位
本山 陽（2L・松ノ木中）

男子団体 優勝（創部初）

女子45kg級 トータル105kg 1位
尾形 薫子

女子59kg級 トータル115kg 1位
富田 葉央（2D・調布三中）

■料理部

▽Highers☆とのオンラインによる食品開発活動（3/10・22）

▽食品加工実習@生物資源科学部（3/29）

▽味噌作り（4/7）

▽1年生対象部活動体験（4/25、28）

教育実習

5月23日から6月11日まで、16名の実習生が3週間の教育実習に取り組んだ。緊張と期待を胸に日々成長を遂げる実習生達は大変頼もしく感じられた。本校での経験が、今後教職に就いた際の糧となることを願う。

令和4年度 教育実習生一覧

実習生氏名	教科（科目）	教科担当者	HR担当者
須寄 海都	国語(現代文)	酒 匂	酒 匂
板山 浩志	地歴(歴史総合)	長谷川	長谷川
佐藤はるか	地歴(歴史総合)	桐 田	齋藤直
鈴木 渚生	地歴(世界史)	中 川	中 川
岩丸 拓樹	数 学	大 舘	大 舘
柴田 諒真	数 学	鹿 野	鹿 野
加藤 蘭	理科(化学)	中 森	中 森
瀧本 京花	理科(化学)	滝 澤	山 内
小田あかり	保健体育	久 保	生田目
北村 優奈	保健体育	三 塚	三 塚
野上 歩海	保健体育	浅 見	浅 見
山下 奏流	保健体育	津 田	津 田
野村 麗	音 楽	松 田	松 田
渡邊 幸菜	美 術	中 島	東 條
板橋 千夏	養 護	永 仮	－
越山 留衣	養 護	永 仮	－

部活動報告

■スキー部

▽令和4年度東京都高等学校春季スキー大会
(4/16～19 於：鹿沢スノーエリア)

女子スラローム

- 第4位 森 きなり (2 E・高田中)
第6位 横田 佳歩 (2 G・晴海中)
第9位 堀口あかり (2 D・稲城六中)

男子スラローム

- 第74位 長澤 結音 (2 J・三鷹二中)

女子ジャイアントスラローム

- 第1位 田口 真帆 (3 E・大綱中)
第7位 森 きなり
第8位 稲垣 海咲 (2 E・つくし野中)
第13位 堀口あかり

男子ジャイアントスラローム

- 第10位 近藤 優太 (2 B・瀬田中)
第86位 長澤 楓音 (2 I・三鷹二中)
第89位 長澤 結音

■野球部

▽春季東京都高等学校野球大会 (4/1～10)

- 1回戦 本校6 - 1 国分寺
2回戦 本校4 - 2 日野
3回戦 本校11 - 1 明大中野八王子
4回戦 本校4 - 11 日大三

※ベスト16

■女子バスケットボール部

▽R4年度春季大会兼関東大会東京都予選

- 2回戦 4/17(日)
本校69 - 65 都立小金井北高校
3回戦 4/24(日)
本校83 - 58 都立芝商業高校
4回戦 4/24(日)
本校75 - 82 品川翔英高校
※結果、ベスト54/約300校中

■アメリカンフットボール部

▽令和4年度東京都春季大会兼第48回関東高等学校アメリカンフットボール大会予選 (5/1～5/15)

- 1回戦 5月1日(日) 本校13 - 12 日大豊山
@日大鶴ヶ丘高Gr.
2回戦 5月15日(日) 本校7 - 24 駒場学園
@早大東伏見Gr.
東京都 ベスト8

■テニス部

▽第62回東京都高等学校テニス選手権大会 (団体の部) (5/15～5/22)

男子ベスト8

女子第3位

■男子ソフトテニス部

▽春季大会 (関東選手権予選) (4/25・5/2)

都ベスト64

- 板橋 壱成 (2 I・桜川中)・
山本 陸 (2 B・井田中)
坂口 祥梧 (3 A・日吉台西中)・
山田 真聡 (3 D・玉川中)

▽関東団体選手権予選 (5/3・4)

都ベスト16

- 板橋 壱成 山本 陸
坂口 祥梧 山田 真聡
小亀 臣仁 (2 D・志木中)
大関 悠生 (3 J・立川七中)
高田 陽斗 (3 I・中川中)
出浦 楓太 (3 H・榊形中)

▽全東京選手権兼全日本選手権予選 (5/15・22)

都ベスト64

- 小亀 臣仁 大関 悠生
板橋 壱成 山本 陸
坂口 祥梧 山田 真聡

■女子ソフトテニス部

▽新進大会 (10/24・31)

- ベスト64 古村 杏 (1 L・貝塚中)・
石本まなみ (1 C・薬師中)

▽インドア予選兼新進大会団体戦 (11/21・23)

ベスト16 本戦出場

▽東京インドア大会 (12/28)

ベスト16

▽中野大会 (4/10)

- 2位 片野 麻衣 (3 I・鶴見中)・
関根 友香 (3 J・天沼中)
3位 長島 光鈴 (3 K・中野東中)・
大坪紗矢香 (3 C・三鷹一中)

▽関東大会予選 (団体) (5/3・4)

ベスト16

■空手道部

▽東京都総合体育大会 (4/29～5/1 於：都立六本木高校)

女子団体組手 第3位

- (今野・竹尾・内山・中臺・樋口・猪股・黒柳・寺島)

女子団体形 第3位

- (今野・竹尾・小場・中臺)

以上、2種目において関東大会出場。

第1学年



第2学年



第3学年

